

< 第5節終了時点順位表 >

	チーム名	勝	負	分	得	失	差	勝点
1	法政大学	3	0	2	10	5	+5	11
2	順天堂大学	3	0	2	10	6	+4	11
3	筑波大学	3	1	1	17	6	+11	10
4	駒澤大学	3	1	1	13	4	+9	10
5	国士館大学	2	1	2	6	5	+1	8
6	中央大学	1	2	2	8	9	-1	5
7	日本大学	1	2	2	6	7	-1	5
8	亜細亜大学	1	2	2	5	9	-4	5
9	流通経済大学	1	2	2	3	7	-4	5
10	明治大学	1	3	1	4	6	-2	4
11	東京学芸大学	1	4	0	4	12	-8	3
12	東京農業大学	0	2	3	3	13	-10	3

国士館大学はリーグ戦後に勝ち点 - 7 とする


得点ランキング

- 7ゴール 市川雅彦(法大)
- 5ゴール 原一樹(駒大)
- 平山相太(筑浪大)
- 4ゴール 赤嶺真吾(駒大)
- 3ゴール 川端佑介(筑浪大)
- 藤本淳吾(筑浪大)
- 田中雅也(筑浪大)

アシストランキング

- 7アシスト 藤本淳吾(筑浪大)
- 2アシスト 田中雅也(筑浪大)
- 赤嶺真吾(駒大)
- 原一樹(駒大)
- 小宮山尊信(順大)
- 中村英之(順大)
- 他3名

**MOM** MF 小椋慶一



駒大の秘密兵器がついに開花しようとしている。この試合、自身初となるサイドハーフとして出場。シンプルなプレーでサイドから再三チャンスを演出し、最後まで諦めないプレーでチームのムードメーカーを務める小椋が今回のMOM。試合後、本人は「後ろの安藤と上手く出来なかった」と振り返るも、このまま定位置を確保できれば、その心配も無用となるだろう。



後半30分で負傷交代してしまった廣井。DFラインから彼の存在が消えてしまうことは駒大にとって大きな痛手だ。次節の味大戦までに復帰することはできるのか

二試合連続ゴールを決め、喜ぶ新川。試合後、「一点目が大事だと思った」と振り返るとあり、先取点を決めたことでチームに余裕が生まれた

途中交代で出場した田谷。果敢に狙ったシュートは惜しくもGKにセーブされた。スピードを生かしたプレーでこのまま駒大のスーパーサブの座を狙う (撮影 川崎篤彦)



髪を短くし、気持ちを入れ替えて試合に臨んだ菊地。この試合も得意のヘディングで東農大のロングボールをことごとく跳ね返した



4月29日 14:40 駒沢オリンピック公園陸上競技場	
駒大 3(2-0)0 東農大	
(5位・7) (6位・3)	
得点者(アシスト)	
【駒】31分:新川真之介 2	
【駒】34分:原一樹 5 (新川真之介 1)	
【駒】83分:赤嶺真吾 4 (田谷高浩 1)	
KOMAZAWA	TOKYONOGYO
GK 牧野利昭(4)	GK 31 藤井賢心(1)
DF 31 安藤 謙(1)	DF 太田浩二(3)
DF 桑原 靖(4)	DF 成岡律之(4)
DF 廣井友信(3)	DF 浅野真市(4)
(80分28阿部琢久哉(3))	DF 38 工藤祐生(1)
DF 筑城和人(3)	(45分田村勇士(3))
MF 菊地光将(2)	MF 古橋 憲(3)
MF 17 新川真之介(3)	MF 石川高大(4)
(74分26田谷高浩(2))	MF 高橋延仁(4)
MF 30 小椋慶一(4)	MF 育藤 亮(4)
MF 八角剛史(2)	MF 28 河井雄一郎(3)
(68分 小林竜樹(2))	(75分阿部文宣(3))
FW 原一樹(3)	FW 45 柳沢昭則(1)
FW 赤嶺真吾(4)	(62分 庄司祐真(3))
S U B	S U B
GK 22 山内達夫(2)	GK 51 吉田 誠(1)
DF 塚本泰史(2)	DF 川口卓也(2)
MF 29 沼守宏樹(4)	MF 澤本悠平(4)
FW 巻 佑樹(3)	FW 23 杉山一人(4)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 高橋武夫
警告(C) / 退場(S)	
【駒】36分:新川真之介(C), 71分:安藤 謙(C)【東】58分:柳沢昭則(C)	
[シュート]13:5[GK]6:21[CK]7:5[PK]0:0[直接FK]11:18[間接FK]14:4[OS]14:3[主審]五十川和也[観衆]約600人	
上記データは全て左側の数字が駒澤	

情報

駒大から全日本大学選抜に、廣井、菊地、赤嶺、原の4選手が選出された。初選出の菊地は「回りは自分よりみんな上だと思うので、'自分のよさ'を出していきたい」と意気込みを語った。

5月18日に19時から西が丘サッカー場でミドルセックス・ワンダラーズ(英)と対戦する。

入場料 一般 1500円、中高生 500円、小学生以下無料

勝ちましたものの...

勝ち点3はものにしたが、試合後に多くの選手は不完全燃焼の声を漏らした。その要因は、ゲームを支配していたのにもかかわらず、内容に満足できなかったからだ。ある選手は「駒澤らしいサッカーができていない。サイド攻撃やセカンドボールに対しての動きが悪い」と話した。今後、強豪校との対戦が残っている。駒澤のサッカーが研究されたとき、選手たちはどう打開していくのか。間違っても2節、3節の過ちは繰り返してはいけない。